

向野堅一顕彰会会報創刊号



向野堅一 (1868~1931)

向野堅一顕彰会会長挨拶

向野鉄朗 (九州ケース株式会社社長・
前直方市教育委員会委員長)

本会設立の目的は、「経済、美術文化活動等に優れた足跡を残した国際的実業家である向野堅一、直方市の産業や政治に貢献した向野菊次郎、向野斉、向野丈夫をはじめとする、

向野家縁の人物の史料に関する調査・研究および諸領域に関する事業を行い、市民の文化と教育の向上に寄与すること」にあります。

近年、近代史上貴重な歴史資料が各地の向野家に保存されているのがわかってきました。しかしながら、代を重ねるにつれ、それらの資料が廃棄され散逸する可能性も大きくなってきています。資料を一括して保存しておく、後世の研究者や郷土史家たちに伝えたいという願いにより、向野堅一に関する文物保管を目的に、旧讃井病院を向野康江氏が購入しました。(以下、旧讃井病院を向野堅一記念館と呼ぶ) 向野堅一記念館は、向野家発祥の地である直方市、古町商店街から直方市役所に通じる殿町に所在しています。アールデコ式の三階建ての洋館で、大正十一年築の歴史的な建造物です。向野家の人々とも縁が深かった讃井源次郎氏によって建てられました。犬養毅首相が訪れたこともあります。直方の繁栄を示す文化的な側面を所持しており、炭鉱集

創刊号

2010年2月12日

向野堅一顕彰会会長挨拶	一頁
事務局長からのお誘い	二頁
向野堅一に関する研究情報	二頁
乾隆皇帝の印影について	五頁
美術館・記念館に関する学生の意識調査	六頁
短歌	十二頁

積地として栄えた歴史的な街の遺産といえるでしょう。

現在、直方市は九州各地の炭鉱閉鎖により、海港から離れた交通の不便な地に変容しています。特に、県下有数の大アーケード街は半分以上の店舗が閉店している状態です。その対策として、これら商店街地域の活性化について種々検討が行われてきました。特に、明治・大正・昭和初期の建造物を保全し発展させることによって、歴史の中の文化遺産を生かした観光資源として有効に活用しようとする試みが始まっています。向野堅一記念館を中心とする殿町が観光地レトロ街として再生すれば、地域の活性化も高まると考えられます。ただし向野堅一記念館が展示館として開館するには、さらなる手間と時間が必要であり、まず、文物の価値や向野家が輩出した人材を市民とともに認識していく必要があるでしょう。とりわけ、向野堅一については、研究者たちによる本格的な調査が進められ、研

究情報交換の促進が求められています。

そして、このような活動を行うにあたっては、様々な契約行為が発生するため、法人格の取得が必須です。しかし、本会の活動は営利を目的とするものではありません。縁ある史料の散逸防止や研究活動の連携を図る会であるため、会社組織は似つかわしくありません。そこで、公益を目的とする特定非営利活動法人を設立した方が、責任ある運用と適切な管理により地域の活性化の方向づけができるのではないかと考え、向野堅一顕彰会を設立することにしました。

事務局長からのお誘い

向野堅一顕彰会会員の皆様へ

向野ヒトミ〔前市長・向野丈夫長女〕

本会では、会員になっても、入会費・年会費等は無料でございます。

会員の方は、年に一度開催される総会に御出席くださいますようお願い申し上げます。出席できない場合は、当会から発送する総会開催案内の返信用葉書にて委任状を提出していただければ幸いです。会の事業（懇親会な

ど）につきましては、会報や葉書にて連絡します。ぜひ御参加ください。向野堅一記念館は来年九月に開館を予定しています。企画展も開催していきます。

当会の活動内容を報告する会報を、年に数回発行する予定なので、それを受け取って情報交換を図ってください。また、会報には無料で論文や自分の文芸作品、意見、近況報告なども含めて様々な記事を投稿することができますので、記事を事務局までお寄せください。御商売をなさっている方は広告等も記載することができます。

さらに、記念館で自分のコレクション展など（作品の個展や写真展も可）の企画展を開催したい方は事務局へお申し出ください。

また、向野家に関係のある方を御存知ならば御紹介ください。当会より御入会の御案内を申し上げます。

連絡先

向野堅一顕彰会事務局

〒八二二-〇〇三三

福岡県直方市新入二〇〇一

TEL 〇九四九-二二一〇八二五

向野ヒトミ

向野堅一に関する研究情報

砂押みゆき〔茨城大学大学院〕

近年、向野堅一に関する研究は、台湾でも関心が高まっている。李菁『洋人舊事―影響近代中国・史的外國人』（相關圖、二〇〇八年）などがその代表である。そこには、日清戦争での向野堅一の「つよくやさしい日本人」としての活躍が描かれている。

日本人のものとしては、次のようなものがある。

①向野康江「一九〇〇年代の一家庭における
図画教育の成果―『骨肉』の発見とその発見による美術教育史研究上の意義―（本文は英語、日本語はインターネットで公開）
〔INSEA 2007Asia Regional Congress
Seoul, Korea <August 22-23, 2007 /Seoul
National University〕（二〇〇七年）

②本多寛尚「廣瀬桃秋作『小説籌木』別本の発見―直方市立図書館所蔵「向野文庫」の紹介―」（『淡窓研究会会報』第三号、二〇〇八年）

③齊藤太郎「『骨肉』―大正期家庭教育をうかがわせる手づくり雑誌―」（『桜花学園大学